

公告 昭38.8.10 出願 昭35.12.14 実願 昭35-61690

出願人 考案者 鮎川敏雄 東京都荒川区南千住町1の13
代理人 弁理士 井上重三

(全2頁)

球技用革ボール

図面の簡単な説明

図面は本考案の実施例を示すもので、第1図は正面図、第2図は紐通し用開口部に用いられる2枚の皮革素子の拡大展開正面図、第3図は第2図の皮革素子の凸型折返し片を折返して接着した状態の裏面図、第4図は第2図A-A線の断面図、第5図は第2図の皮革素子を折り曲げて紐通し用耳を形成した状態の縦断側面図、第6図は皮革素子と皮革素子との接着状態の一部を示す拡大断面図である。

考案の詳細な説明

本考案は球体を構成するに必要な枚数だけの皮革素子をほぼ同一型に裁断して形成し、該皮革素子の中の2枚の一側縁にそれぞれ紐通し用耳を形成すべき折返し片を延設し、該折返し片の基部に数個の透孔をそれぞれ縦列に穿設すると共にそれぞれ折返し片の外側縁より連接部に向つて1個または数個の山形切込みを形成して数枚のひれ状片となしその折返し片をその中心方向に寄せ合せ皮革素子の裏側に連接部を残すように折り返して適当な接着剤にてそれぞれ密着させて皮革素子を円弧状になるように張力を与えかつ連接部にも皮革素子に働く張力と同様な力を与えて耳の裏側に当る部分を弧状に形成してボールの表面より耳の側縁が突出しないように形成し、皮革素子の耳を互に咬み合せて紐を挿通したことを特徴とする球技用革ボールであつて、その目的とする所はチューブの革ボールへの出し入を簡単になし使用時において紐通し耳が球面の外方に突出させないようになし、紐を球面外方に露出させず常にボールの球面を確保する革ボールを提供するにある。

以下図面に就き説明すると、球体を構成するに必要な枚数だけの皮革素子1a, 1b, 1c, 1d……1nをほぼ長方形の同一形状に裁断して形成し、該皮革素子の中の2枚1aと1bの一側縁にそれぞれ紐通し用耳を形成すべき凸型折返し片1a', 1b'をそれぞれ延設し該折返し片の基部に縦方向に位置して等間隔に数個の透孔2, 3の連接部4をそれぞれ穿設すると共にその透孔2, 3の連接部4

5を他の皮革素子の部分よりも若干肉薄となるよう形成し、かつそれぞれの折返し片2, 3の外側縁より連接部に向つて山形の切込み6, 7を設けて折返し片2, 3をその中心方向に寄せ合せて山形切込み6, 7をなくして皮革素子1a, 1bの裏側に連接部4, 5を中心としてそれぞれ折返して合成樹脂等の接着剤8をもつてそれぞれ密着させて皮革素子1a, 1bの表側を中高の円弧状に形成すると共に連接部4, 5即ち紐通し用耳の上下端面(第2図参照)をも皮革素子1a, 1bの円弧状面に応じてその球面より突出しないように中高の円弧状に形成しつつ耳の裏側に当る部分を弧状に形成して置き、しかる後に皮革素子1aと1bとにそれぞれ形成した耳と透孔を交互に咬み合わせて皮革素子1a, 1bと残りの各々皮革素子1c, 1d……1nをもつて球体を構成するように接合端面を互に接近させて組合せ、これら皮革素子1の接合面を被覆すべきテープ状クロムなめし革片またはテープ状合成樹脂片、布片等よりなる薄帯9をもつて皮革素子1の内周面よりその接合部分に跨がるよう前記接着剤8にて順次貼着して第1図に示すようにボール10を構成する。この際に隣合せる各々の皮革素子間に球面構成のために生じる若干の間隙11(第8図参照)の部分には皮革素子1と同色または異色の着色剤を混合した合成樹脂接着剤12を充填させて接合する。13は皮革素子1にて被覆されたチューブを示し、14は紐通し用耳の咬み合部に挿通した紐を示す。なお皮革素子1群の裏面には布張りを施したものを使用することができない。

本考案は上記のように構成したから紐通し用耳の両端面がボール8の球面より突出する事なく、さらに紐通し用耳の表側および裏側のいずれの方向の断面をもボール8の外周および内周の円弧面に沿わせ得て確実に球面を形成する事が可能なので競技用として極めて最適なボールを提供できしかもチューブ13が損傷した場合または取替える場合には紐14の挿脱が容易であるから素人でも簡単にチューブ13の脱がれて頗る便利なものである。

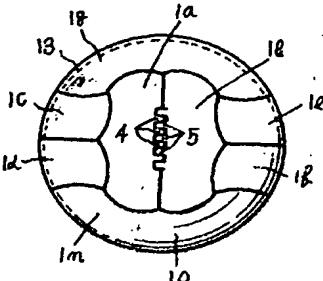
る。

実用新案登録請求の範囲

球状を構成するに必要な所要枚数の皮革素子をほぼ同一形に裁断して形成し、これら皮革素子の接合端面を互に接近して組合せ、それぞれ皮革素子の密着接合部分の内周側面にテープ片よりなる薄帯を跨がるように接着剤にて貼合せ、球面構成による皮革素子間の表面の間諒に皮革素子と同色または異色の着色剤を混合した接着剤を充填し、球状を構成した皮革素子の中の2枚の一側縁にそれぞれ紐通し用耳を形成すべき折返し片を延設し該折返し片の基部に数個の透孔をそれぞれ縦列

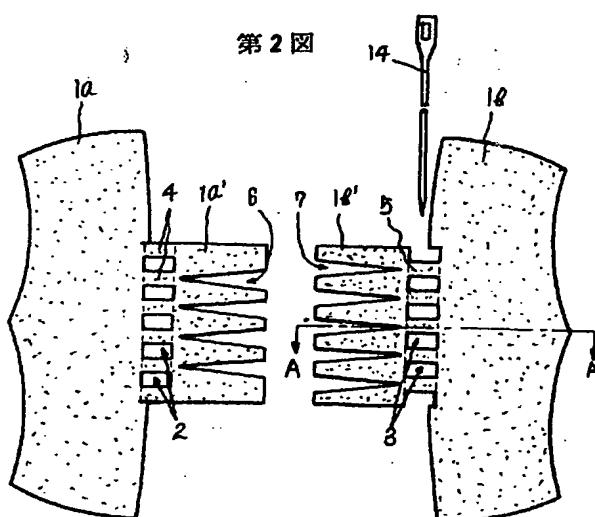
に穿設すると共にこの透孔の接合部を他の部分より若干薄肉となしそれぞれの折返し片の外側縁より接合部に向つて1個または数個の山形切込みを形成して数枚のひれ状片となし、その折返し片をその中心方向に寄せ合せ皮革素子の裏側に接合部を残すように折り返して適当な接着剤にてそれぞれ密着させて皮革素子を円弧状になるように張力を与え、かつ接合部にも皮革素子に働く張力と同様な力を与えて耳の裏側に当る部分を弧状に形成してボールの表面より耳の側縁が突出しないように形成し、皮革素子の耳を互に咬み合せて紐を挿通したことを特徴とする球技用革ボール。

第1図



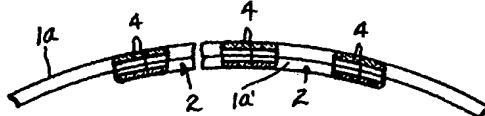
第4図

第2図



第3図

第5図



第6図

